

平成 29 年度第 1 回図書館協議会

平成 29 年 7 月 25 日（火）
午前 10 時 30 分～11 時 40 分

議事録

会場 門真市役所本館第 6 会議室

- | | |
|------|--|
| 出席委員 | 村上委員、木下委員、仲谷委員、梶井委員、
明淨委員、東田委員、下岡委員 |
| 事務局 | 久木元教育長、満永教育部長、水野教育部次長、西中館長、
竹本館長代理、岡本分館長、三野 |
| 傍聴者 | 1 名 |
| 案件 | (1) 委員長、委員長職務代理の選出
(2) 平成 28 年度事業について
(3) 平成 29 年度事業計画及び予算について
(4) その他 <ul style="list-style-type: none">・「第 2 次門真市子ども読書活動推進計画」推進状況について・学校連携について・議会質問について |

図書館協議会委員の紹介

教育委員会事務局の紹介

教育長 おはようございます。公私ご多忙のところご参集いただきましてありがとうございます。今年度図書館は40周年を迎えております。「えほんのひろば」等、新しい取り組みを計画しているところでございますが、また新たに、平成29年度から30年度にかけて図書館サービス計画、これを策定しようとしているところでございます。また委員の皆さま方におかれましては素案の策定にあたりましてご意見賜りたく思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。学校図書館では、今年から司書が全校配置になりまして、一定市民向け、あるいは広く子ども向けの体制づくりも一歩進んだものと思っております。司書も活用しながら、新しい読書活動の推進をがんばっている学校が出てまいりまして、本当に我々としても司書を配置してよかったなと思っております。今さら私が申し上げるまでもないのですが、子どもたちの読書活動の大切さを感じておるところでございます。門真市は貧困といえますか、家庭状況の厳しい市でございまして、そのような貧困とともに子どもの学力低下というの大きな課題になっております。先日も、小学校で門真市の、3年生、4年生、5年生が学力テストをしておりますが、そんな中で少し伸びてきていまして非常にうれしく思っていますが、それがやはり就学前からの延長で、いわゆる3年、4年、5年で伸びてきているというような状態がございまして、ということはやはり就学前の読み聞かせも含めて、取り組みをもっともっとしたい、家庭も含めた取り組みが進んでおることが、より一層学力の向上につながるのではないかと改めて感じておるところでございます。ということで、これからも読書活動の推進に向けた取り組みをまた一層進めてまいりたいと考えておりますので、いろいろなお力添え、ご支援を賜りますようお願いを申し上げまして、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いします。

事務局 ありがとうございます。
それでは案件1に入ります。
委員長、委員長職務代理の選出
(委員長には仲谷委員、委員長職務代理には梶井委員に決定)

委員長 改めまして、仲谷でございます。不慣れではございますが、皆さまの協力をいただいて、滞りなく進めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。次の案件に移りますが、その前に資料の確認をさせていただきます。本日お配りしております資料は、まず「会議の次第」、「図書館協議会委員名簿」、「座席表」、「平成28年度職員構成表」、そして門真市立図書館協議会会議資料としまして、「資料1 平成28年度門真市立図書館事業」、「資料2 平成29年度門真市立図書館事業計画及び予算」、「資料3 平成2

9年度図書館事業(案)」、「資料4 第2次門真市子ども読書活動推進計画推進状況」、A4版2枚「条例施行規則」の5点となります。不備はございませんでしょうか。

それでは委員長、順次進めていただきますよう、よろしくお願いいたします。

委員長 では案件2、平成28年度事業報告について事務局から説明願います。

事務局 平成28年度の事業報告について説明させていただきます。資料1の、「平成28年度門真市立図書館事業報告」をご覧ください。A4版横の形となっています。まず、1ページでございますが、図書館活動事業についてです。貸出については、全体をみますと27年度に比べ減少傾向にあります。学校支援サービスとして、28年度より学級文庫配本事業を開始しており、団体貸出点数が増加しておりますので、全体の児童書の貸出点数が増加となっております。登録者は、睡眠利用者などの削除数が新規登録者分を上回ることとなり、減少となっております。また、参考資料室のインターネット利用件数が27年度、968件だったのに対し、28年度は1492件となっております。リピーターを含め、滞在型の利用者が増加していることの一端であると思われます。中には、小中学生の子どもたちも含まれており、図書館へ来館するきっかけづくりとなっています。予約については、28年3月のシステム更新に伴い、開架の本にもインターネットからの予約ができるようになったことで、利便性の向上から件数が増加していると思われます。また、28年4月より行っているe-レファレンスは、7件の依頼がありました。

次に、2ページをご覧ください。図書館協議会を7月と3月に開催いたしました。図書館フェアは、5月末の週末28、29日に開催いたしまして、リサイクル市、おはなし会ともに利用が多く、大変好評でした。例年、広報等に掲載される前から、リサイクル市はいつ開催するのかお問い合わせいただくほど、多くの市民が楽しみにしておられます。

(スクリーンをご覧ください。こちらは当日のリサイクル市の様子です。)

(こちらはおはなし会の様子です。)

次に、子どもの読書活動推進事業についてですが、図書館見学に多くのお子さんが来館していただきました。一日図書館員は、夏休みの行事として定着しております。職業体験学習につきましては、28年度は市内6中学校のうち、3校の参加がございました。また、27年度に引き続き、近隣の門真はすはな中学校の学校司書提案による図書部の選書ツアーを行いました。

市民プラザへ図書館見学に来られた時に、ボランティアが読み聞かせをしている様子です。

(こちらが、一日図書館員の様子です。)

(こちらが、中学生の職業体験です。おはなし会も、生徒にやってもらっています。)

3ページに記載しております、学校・園共催事業については、28年度に新しく行った取り組みとなっております。「図書館と学校との連携のための研修」では、司書教諭、学校司書、市職員、ボランティアの方々の参加がありました。

「学校図書館司書スペシャルイベント『えほんのひろば』」については、後ほど出てきます大阪府との共催事業である面展台製作教室に参加していただいた方が中心となって、ほぼ全員の市内学校司書が協力しながら開催し、ビブリオバトルのデモンストレーションは、生徒たちに向けて取り入れる前に、教員の研修として行ってほしいとの依頼があり、図書館と学校司書がバトラーである発表者となって行いました。参加された先生方には大変好評でありました。「えほんのひろば」は、ボランティアの方々が企画し、保育園で開催いたしました。（スクリーンをご覧ください。こちらが、図書館と学校との連携のための研修の様子です。）

（こちらが、学校司書が行った「えほんのひろば」の様子です。こちらでは、このような手づくりあそびもされておられました。）

（門真はすはな中学校でビブリオバトルのデモンストレーションを行ったときの様子です。）

続きまして、他課等共催事業につきましては、五中校区の地域会議や、京阪古川橋駅周辺で行われる「ラブリーフェスタ」、古川橋駅構内の女性サポートステーションより読み聞かせの依頼があり、ボランティアの方々が出向いておはなし会を開催しております。

（こちらが、地域会議のおはなし会の様子です。）

（こちらが、ラブリーフェスタです。中学校の跡地を利用して行われた読み聞かせの様子です。）

（こちらが、女性サポートステーションで行われている読み聞かせの様子です。）読み聞かせの要望が増加し、ボランティアの活躍の場が増える状況とはなっておりますが、28年度中に新たなボランティア活動の希望者が数名来られた中で継続して活動できる方は、2名となりました。また、今まで活躍していただいた方の中で、活動を控える方が数名おられるので、今後もボランティア活動の希望者が増えるよう、呼びかけを行ってまいります。

また、読み聞かせ・手作り等行事を例年どおり実施いたしました。

4ページの中ほどをご覧ください。「出張おはなし会」では、保育園等にボランティアの方々が訪問し、おはなし会をしていただきました。28年度は、新たな保育園と小学校からの要望が増えたことにより、参加人数の増加につながっております。

次に、「第2次子ども読書活動推進計画」の策定に伴い、より一層の読書活動推進のため行われた、絵本作家谷口智則さんのライブペインティングと絵本の読み聞かせでは、絵本作家の方が子どもの希望を聞き、大きな一つの絵を完成していくパフォーマンスアートを中心とした内容で進められ、子ども30人を含む110人の参加者からは、「絵本の世界がひろがった」「読み聞かせを作家さんの声で聞けて子どもも夢中になった」などの反響がありました。完成した作品は、図書館1階、児童書コーナーの壁に展示してあります。

（スクリーンをご覧ください。市民プラザの視聴覚室で行われました。絵本作家の谷口智則さんが描かれている間、職員が読み聞かせを行いました。）

（完成した絵が図書館に掲示してある様子です。）

5ページの展示会は、資料に記載どおり行いました。「おはなし・ボランティア

養成講座」では、「ブックトークはじめてみませんか」が行われ、ボランティア、学校司書などの参加がありました。市民プラザ分館では、子どもに体験してもらうミニ実験と、ボランティア向けの科学読み物の講座の２部制の行事が行われました。

出前講演会は、例年どおり門真市内公立の幼稚園２園で実施いたしました。

（こちらは展示会の様子です。児童書のコーナーの一角、テーブルを使っています。）

（こちらは「ブックトークはじめてみませんか」の講座の様子です。）

（こちらは、科学実験を行ってもらっています。絵本の紹介です。）

大阪府共催事業としましては、６月に面展台製作教室、１０月の末から１２月にかけては５回講座として日曜日に「読みメンになろう！家族で本をたのしもう！研修」を行いました。こちらの事業については、大阪府が文部科学省委託事業「大阪府子ども読書活動推進ネットワークフォーラム事業」として本市を含む３市と共催で行い、大阪府が２９年２月に開催した「就学前フォーラム」において門真市として報告をさせていただきました。

（面展台を作成している様子です。）

（こちらが「読みメンになろう！家族で本をたのしもう！研修」の中の、「えほんのひろば」の先生に講演をいただいているところです。）

（こちらも講座の様子です。）

次のページになります。２月の蔵書点検のための休館日には、郷土資料の有効活用とスキルアップのため、研修として、図書館職員と学校司書を対象に「門真市の歴史」の講座と歴史資料館の見学を行いました。

夏のビデオ上映大会は、子どもの作品と大人の作品の時間を分けて同じ日の７月に開催いたしました。

そして、生涯学習支援事業といたしまして、朗読ボランティア養成講座です。こちらは毎年実施しておりますが、朗読ボランティアの養成と同時に朗読技術の向上を図っております。対面朗読につきましては、朗読ボランティアの皆さまのご協力のもと実施いたしました。

「朗読で楽しむ文学の世界」と題する大人のための朗読会は、初夏と秋の行事として定着しております。

（こちらは「朗読で楽しむ文学の世界」の様子です。）

以上で平成２８年度の事業報告を終了させていただきます。よろしくお願いいたします。

委員長 ご報告いただきましたが、何かご質問はございませんでしょうか。

委員 ボランティア活動の希望などは、後の方がいいですね。ぜひ伝えてほしいということを会の皆さんから聞いてきているのですが、今ちょうど報告されたことと関連するので言ってもいいですか。

委員長 今、お願いします。

委員 絵本ことの葉会という読み聞かせのボランティアグループで活動しています。

メンバーが減ってきて、今は常時活動できるのは8人で、ほとんどが10何年以上やっています。ここ2、3年、報告されたように、学校の教室や保育園、幼稚園の教室に出かける機会がとて多くなりました。その場合、1人か2人で行きます。私たちは読み聞かせの10年選手、何も基盤のないところから図書館で受けた講座や個人的に研修を受けたりして、一応スキルを磨いて、それなりの読み聞かせの技術を持っていると言っていますが、それはあくまでも自称です。できているし通じているだろうという思いでやっています。

1人で出かけるときに、怪訝な顔をされます。「絵本ことの葉会から来ました。読み聞かせです。」と言います。読み聞かせはうまくいきますが、そのときに皆が思うのは、10年ずっとやってきて、積み重ねてきている中で、門真市や教育委員会から、読み聞かせボランティアの認定証のようなものを、名刺代わりみたいなものとか、自分のお守りみたいな、今までやってきたことの確信みたいな、「大丈夫、これがある」というようなものを、内容はいいのです、絵本ことの葉会ということ以外は。それを、門真市の教育委員会か図書館から、読み聞かせボランティア認定証みたいなものを出してもらえたら、それは持っているだけで、ひけらかすわけではないけれど、それが名刺代わりになってお守りにもなるかなということで、ぜひ今日はお話しをしてきてと、会員の皆さんから言われます。

「読みメンになろう」の講座のときに、全部の講座に参加したら、私は全部行けなかったのでもらえませんでした。修了証書のようなものをいただいている、そういう形で、何年間かやったら門真市からかどこからか知らないけれども、認定しますよと、門真市のあちこちで読み聞かせをしてもいいですよというような認定証を出してもらえたら、1人で行ったときに、「こういう者です」と、学校などは特にセキュリティがきちっとしているので、ピンポンとしてやっとなげてもらって「こういう者です、来ました」と言って、初めて対応される方は怪訝な顔をして、どこのおばちゃんが来たんだろうというような顔で迎えられるので、そういうことを提案したいなと思っています。

ボランティア活動を何年か積み重ねることで、そういう資格もいただけるんだということになれば、ボランティアを希望される方も増えるか増えないか。増えるかなあということも話しに出ていました。ほかの所で活動をしている方も、もう何年も読み聞かせをされているんですね。

委員 はい。

委員 あなた方も何年も。10年とか。

委員 育児サークルとしては17年やっています。

委員 17年ですよ。

委員 表彰されたことはないんですが。ベビーのほうでは11年、読み聞かせもして、ブックスタートにも絵本ことの葉会さんと一緒に参加させていただいています。

委員 これを見ていたらすごく行っています。月に多いときで10回くらいあちこちに。

委員 こういう、何かかけるものはないのでしょうか。入りにくいですね、小学校には。そういうものがあれば、入りやすいと思いますが、確かに小学校に入るときに入りにくいですね。

委員 ピンポンしてね、対応される方がいろいろな方々なので。

委員 かける物だけでもあれば。

委員 おっしゃっていたように、小学校に、とてもたくさん、絵本を読み聞かせるんですね。初めは怪訝な顔をされて、おばちゃん何しに来たんやという顔をされます。担任の先生も胡散臭そうな顔をされていて。でも終わったときは柔らかい顔で「よかった」と。また楽しみにしているのですが、そういうものを、聞いてきてほしいと。

委員 絵本ことの葉会さんは、共通のエプロンはないのですか。

委員 エプロンは会で作って、絵本ことの葉会としていますが、絵本ことの葉会というのも自分たちで勝手に、自称なので、公認という形で、門真市のあちこちで活動できたらと。図書館に依頼が来て、それを受けて、図書館から出かけることが多いので、ということです。

表彰されたことはありますが、賞状をね、図書館に飾ってあるし。ボランティアの活動として登録して、蓮の、やってらっしゃるんですね、門真市が違う事業でやっていらっしゃるか。ここでは、市長から、こんなに参加してくれたとボランティアに感謝状というのを、立派な表彰状を一人ずつもらいましたが、それよりも認定証がほしいねという話でした。

この近辺では、東淀川区の読み聞かせの取り組みがJ P I C（一般財団法人出版文化産業振興財団）と協賛してやっておられて、一定の研修に参加して講座を終えた人には、読書ボランティア認定証というのを配布されて、それがボランティアの支え、土台になっているということを聞いたことがあって、調べてこようと思ったのですが時間がなくて。そういうこともあるので、いろいろ、あちこちに聞いていただいて、していただけたらなと思っています。以上です。

委員 それに関係してですが、二島小学校で昨年度1年生に来ていただきましてありがとうございました。そのきっかけは、図書館から各学校に来たのを、職員室で回覧しますよね。1年生が、それに応募して、来ていただいたという形で、2回来ていただきましたが、「こんながあるよ」とか横に広がる絵本とか、読み方もとてもお上手で。1年生の導入期にね。私も長い間やっていて、来ていただいたのが初めてでした。とても素敵だし、今年の1年生にも「昨年こんな

ん来てもらってはりましたよ」とは言いましたが、導入期としてとてもいいなと思いましたし。教員は子どもたちにお行儀よくさせようとはしますが、絵本ことの葉会の方は、4人ずつ来てくださったのですが「いいですよ、子どものこんな反応、いいですよ」と教えていただいて、楽しませたいと。笑わせていただきました。

委員 東小学校に、門真市の端っこに、大型の絵本を自転車で。皆、紙芝居の舞台を背負ったりしながら出かけて行くんです。「熱中症になるわ」と言いながら。毎週金曜日に一人ずつ行きます。始業前の15分なので。初めは「このクラスの子は大変なので、聞かないと思います。すみません。」と初めに担任の先生も言われますが、始まるととても集中して、柔らかい雰囲気になって終わるので、小学校のそのような時間をこちらにも楽しみにしています。

委員 ありがとうございます。

委員長 そうでしたら、ご要望がありましたので、回答していただけますか。

事務局 絵本ことの葉会さんには、毎月、たくさんの施設やいろいろな学校にも読み聞かせに行っていただきまして本当にありがとうございます。人数も少ないということですが、認定証につきましてはどういう方法がいいのか考えさせていただきまして、前向きに検討させていただきますので、お時間をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員 そのように伝えます。

委員長 ほかにございませんでしょうか。

委員 ボランティアに関して、ずっと養成はしているけれどもなかなかボランティアの増加につながらないという話があったかと思いますが、最近の動向はどうでしょうか。

委員 最近も、高齢化して、家庭の事情がいろいろ、介護などあったりして、ちょっと活動をお休みとか、縮小してくださいとか、引っ越しされたりして、減っていく一方です。

委員 新しい方というのは。

委員 新しい人は見学に来られますが、とても活動量が増えているので、その全部に参加できなくて、そのうちの1回だったらということで来られたりしていますが、それは2名くらいです。それは絵本ことの葉会としてではなくて図書館で。

事務局 図書館のボランティアの希望は連絡をいただいています。絵本ことの葉会さ

んは、毎月定例会をもたれていて、勉強会もされているので、毎月木曜日の午前中にそのような時間がありますがどうですかと投げかけますと、平日は働いているのでとか、午前中は出られないですというお声があり、水曜日の午後に行っている図書館のおはなし会はどうですかとお声かけしましたら、昨年度は数名いました。ですが、介護などで定着しませんで、1人しか来られませんでした。新しく、よそでも活動をしているけど門真でもぜひ活動したいとおっしゃった方が、水曜日には参加していただいています、なかなか、時間の都合がつかなかったり、定例会、勉強会に参加できなかったりということです。今年度絵本ことの葉会さんにもご相談しまして、定例会、勉強会に参加できなくてもぜひご加入いただいてもいいんですよと言っていたので、土曜日しか参加できないというような方でも、絵本ことの葉会につないでいます。

委員 先ほど、新規ボランティア2名とご説明いただいたのは、図書館内で活動なさる、絵本ことの葉会さんは地域での活動がありますが、図書館のみの活動を希望なさっている方ということですか。

事務局 そうですね。2名とも水曜日のおはなし会に参加していただいて、しかも月1回程度入る形で活動していただいている状態です。

委員 その関連で、絵本ことの葉会さんの活動しやすいような認定のことはぜひご検討いただきたいと思います。
大阪府との共催事業で「読みメンになろう！家族で本をたのしもう！研修」をなさって、結構参加者も多かったと思いますが、先ほど写真を拝見していますと、門真市で行われた読みメンは男性に限らずという形で行われたのでしょうか。

事務局 昨年度の大阪府の募集要項に、家族で参加する形でも可となっております、男性限定にするとなかなか集まらないかなというところで、男女とも参加可という形で募集しました。女性の、ボランティアの経験者の方が勉強されるというような形が多くなりました。

委員 承知しました。昨年度はそのようになさったということですが、男性のみということで実施するメリットもあると思います。女性がおられると取り繕ったりということで、男性だけの参加であれば自分もやってみようかなということもあるかと思うので、今後もし機会がありましたらご検討いただきたいと思います。
また、ボランティアさんのこととつながりますが、読みメン研修を受けた方の、最終回ではえほんのひろばで読み聞かせをなさっている様子も見せていただきましたが、この連続講座の中で活動につながった方というのは今回おられないということなのでしょうか。

事務局 最後の、えほんのひろばの講習を受けた方で、ご協力いただける方ということで、お声かけをしまして、3名に来ていただきましたが、保育園の先生や枚方

市で活動されている方でした。1名に関しては時間に都合がつかないということで、今後時間や曜日、いろいろなところで活動は増えていますので、またお声かけすることはあると思います。

委員

ありがとうございます。他市の男女協働参画センターの事業で読み聞かせの養成の事業をしたら、退職なさった男性の方も参加してくださって自主グループができたのですが、その男性の方もとても熱心に活動をしてくださっていますので、読みメン講座があるぐらいですので、担い手は女性のみということではないのは皆さんご承知のことだと思いますので、そういうことで、呼びかける対象を広げていただくと、男性、あるいはもし、現役の方もですが、ファザリングジャパンとか、男性たちのグループでも絵本や読み聞かせに関心をもって活動なさっている方もおられますので、素晴らしい事業だということはもちろん重々皆さんご承知のことですので、活動をぜひ継続していただきたいと思いますので、呼び込みの対象の拡大といいますか、そういうこともあると、何か効果につながるのではないかと思います。よろしくお願いします。

委員

おはなしボランティア養成講座というのがありまして、同じような質問で、ここからつながらないですかというのが毎回あると思います。お話を聞いていると、保育園の先生や何か少しスキルのある方が参加されていることが多いように思いますので、レベル落としとってはおかしいですが、一般の、辞められた方で少しお時間がある方ができるような、少し簡単な、それこそ絵本ことの葉会さんにつながるような、レベルを落とせば、講座ということでやりにくいかもしれませんが、そういうことをしていただくと、もう少しボランティアにつながるのかなと、毎回思っています。ブックスタートでも、絵本ことの葉会さんがいないと、たぶん、もう無理です。私は単独で入っていますが、絵本ことの葉会さんたちがいないとボランティアの方が、それ以外の方もときどき入れ替わりで来られたりはありますが、それを目的とってはおかしいですが、少し、初歩的なものというのは絵本ことの葉会さんは無理なんではないか。

委員

見学に来られる方に、ちょっとハードルが高いのは、ふつうの絵本、幼児や学童向けではなくて、赤ちゃん相手の絵本で、引かれるみたいです。赤ちゃんってなんか絵本をただストーリーを進めるわけにはいかないの。男性も一度来られたことがあります、その方は、「あかずきんちゃん」などのような、昔話など物語性のある絵本を読み聞かせようと、そういう読み聞かせだと思って見学に来られたようですが、赤ちゃんが多かったので、「もう無理です、無理です。すみません、失礼しました。」と帰られました。

赤ちゃん向けの方はハードルがけっこう高いです。赤ちゃんのほうが難しい。赤ちゃんのはとても工夫がいて、遊びを入れてあげなければいけないし。だから、赤ちゃんよりも幼児向けや学童に行かれたほうが、聞いてくれるからうれしいというか、受け入れてくれるので。赤ちゃんは全然受け入れてくれないから。

- 委員 赤ちゃんの読み聞かせはずっとしていますが、やはりお母さんに満足していただくというのが、お母さんが楽しいなと思っていただいたらまた次も来られるので。ストーリーがあるのは難しいですが、簡単な、ブックスタートで4カ月健診でできるようなものは赤ちゃんも見えていますし、色がとてもきれいですので。でもやはり親まで、ということになってくると思います。なのでそこまでの配慮ができる方でないと難しいのかもしれませんが。ブックスタートでも、お母さんに対して話しをすることが多いのです。職員のように皆さん働いています。いろいろ質問されることもありますし、子育てについて聞かれることもあったりするので、それらを含めてとなってくると、おっしゃるとおり難しいかもしれません。
- 委員 たぶん、対象年齢を、現役の人はお仕事をされているから無理なので、定年退職された人対象の講座を、いやかもしれないけど、でも高齢化してくるので、しないと、私が保育園などで読み聞かせていたら、保育士さんで、「私、定年退職後にすることが決まった。読み聞かせをする」と言ってくるので、「早く辞めて」と言っています。対象を高齢者、シルバーと協働してやるとか、皆、元気にうろうろしていらっしゃるので。
- 委員 他市で活動なさっている男性も、退職なさっている方です。全然違和感なく子育て期の女性たちとも一緒に活動なさっているので、全然違和感ないなと思っています。
- 委員 いいと思います。ブックスタートでもお父さんと一緒に来られることが多いです。4カ月健診で。今、イクメンなので。そうすると、男の方が絵本を読んでくださると、お父さんも入りやすいかなと思います。そこでおっぱいをあげることはないのです。授乳室であげてますので。男の方がいても問題ないかなという感じです。
- 委員 私の夫が孫に読み聞かせをしていますがとても上手です。孫も一生懸命聞いているから、いいかなと思って、絵本ことの葉会に入らないか誘ったのですが。
- 委員 シニアでも男性の方が多いと、また若いお父さんたちも入りやすいですね。
- 委員 上手ですよ、お父さん方も、意外に。ええ、こんな読み方があるのかと。
- 委員長 はい。ほかにございませんでしょうか。そうしましたら、案件3に進ませていただきます。案件3、平成29年度事業計画及び予算について、事務局から説明をお願いいたします。
- 事務局 続きまして、1枚ものになりますが、資料2「平成29年度門真市立図書館事業計画及び予算」をご覧くださいませでしょうか。今年度予算、事業内訳と前

年度予算と増減を記載しております。

29年度の事業計画及び予算について説明いたします。

図書館活動事業といたしまして、主なものとして図書費があります。図書費につきましては、調べ学習用図書費として30万円増額となっており、1,430万円となっております。近年、同じテーマで複数の学校からの依頼が重なることがあったため、予算を活用し、調べ学習の充実を図ります。

平成28年4月に、障害者差別解消法が施行されたことにより、合理的配慮の提供として、聴覚障がい者の方が筆談できる「磁気式メモボード」を購入しました。

そのほか、他市図書館視察に伴う予算として需用費等の中に、旅費、通行料の新規予算が含まれております。今年度は瀬戸内市民図書館の視察を予定しております。

子どもの読書活動推進事業といたしまして、従来からの「おはなしの会」などがあります。次の、展示会、講座等開催事業といたしまして、幼稚園の出前講座、ボランティア養成講座等を予定しております。

生涯学習支援事業といたしましては、「朗読ボランティア養成講座」、「朗読で楽しむ文学の世界」を実施いたします。

「学校等読書活動推進支援事業」は、委託業者により市内の学校等に図書館資料を学期はじめと学期終わりに配送・回収する事業であり、昨年度から始まったものですが、今年度も継続して行っております。業者の見積もりを取ったところ、同じ回数の年6回で増額となり、予算額は38万9千円となっております。1学期の配本希望クラスは26クラスでありました。

また、この表には掲載されておりませんが、予算にも計上されておりませんが、以前、委員よりご提案のあった国立国会図書館の「歴史的音源」を今年の3月に、「図書館向けデジタル化資料送信サービス」を4月に開始いたしました。今後、市民の方に活用していただけるよう、広報等を行ってまいります。

以上、簡単ではございますが、29年度の予算につきまして報告を終わらせていただきます。

続きまして、平成29年度の行事予定を三野から報告させていただきます。

事務局 平成29年度の行事につきまして説明いたします。資料3「平成29年度図書館行事（案）」をご覧ください。

まず、今年度4月から7月までに実施いたしました行事の報告をさせていただきます。4月には子ども読書週間にちなみまして、本館、分館ともに、「絵本で楽しむかがく」、「図書館が開館した1977年に生まれたこどもの本」のテーマのもと、子どもの本展示会を行いました。

また、本館では毎年恒例の絵本を中心としたおはなしの行事「絵本の好きな子よっといで」を23日に行い、8名参加いただきました。

5月の27、28日には、市民プラザで図書館フェアを開催いたしました。こちらは、好天にめぐまれ、例年どおり大変好評の中終わることができました。

27日の子ども向け行事であるパネルシアターでは、34名の参加がありました。6月には、3日に分館で「初夏のおはなし会 おはなしの広場スペシャル」

を行い、30人の参加があり、4日に本館で一般向け行事として「朗読で楽しむ文学の世界」を開催し、16名の参加がありました。

6月末には、門真はすはな中学校の学校司書からの提案により、図書部が作成した「おすすめの本」の展示をし、本に挟んである生徒手づくりのPOPはがきの裏面に感想を書いてもらう「読書郵便」を8月27日まで行います。

22日には、本館で「夏のおはなし会 おはなしの広場スペシャル」を行い14人の参加がありました。

22日から30日まで、本館・分館において、司書がおすすめの本を袋詰めにしたものを借りてもらえる「本のおたのしみ袋」を実施します。こちらは、子どもたちに普段自分たちでは手にしないような本との出会いをつくり、読書に興味を持ってもらえるきっかけとなれば、と考えております。昨年度、はじめての実施でしたが、高学年用、低学年用、20袋を各館に用意したところ、本館では、数袋足さなければならぬほど好評でした。

今後は、本館では夏のビデオ上映会を子ども向けと大人向けに行い、門真はすはな中学校図書部による、「選書ツアー」を行います。「選書ツアー」の内容としては、図書部の生徒たちが中学校に置いて欲しい本を選ぶ参考とするため、市立図書館の新刊が並ぶ棚の見学や、参考となる資料を見てもらうなどします。27日には、学校司書による本の表紙を面展台に並べる「本のひろば」を開催します。30日は、分館で「親子で楽しむ紙芝居とおはなしの会」を開催します。

8月に入りまして、2日には例年好評の「一日図書館員」という小学生を対象に図書館の仕事を体験してもらう行事を行います。

分館では1日、本館では8日に「夏の手づくり遊びの会 スーパーボールづくり、糸でんわづくり」、本館では20日、分館では26日に「英語で楽しむおはなしの会」を予定しております。24日には、初めての試みとして、開館40周年記念事業「夏休みこわーいおはなし会」を小学生以上を対象に行います。そのほか、開館40周年記念事業としまして、「えほんのひろば」、「書庫開放」、「音楽会」も予定しております。

冬休み、春休みの学校休業時には絵本の読み聞かせを中心とした行事を開催します。こちらはボランティア団体との協働による行事となります。

定例の行事としましては、下枠内に記載しておりますように、本館・分館ともに、水曜日・土曜日の読み聞かせ、乳幼児向けには、本館では月に2回、分館では月に1回、「赤ちゃんふれあい絵本タイム」と、4カ月健診時に、ブックスタート会場での読み聞かせを行っております。以上で行事の説明を終わります。

委員長 平成29年度の事業計画及び予算、行事説明がありましたが、何かご質問はございませんか。

委員 予算のときに、国立国会図書館の「歴史的音源」と「図書館向けデジタル化資料送信サービス」をスタートされたというご説明がありましたが、それは利用者用インターネット端末でということですね。今日は図書館ではないので確認できないのですが、この利用者用のインターネット端末でこういうことができ

るようになりましたという広報や掲示をされているということですか。

事務局 はい。

委員長 ほかにございませんでしょうか。

委員 すみません。図書館行事ですが、この間充実して子ども向けにこれら取り組みをされていたのが、児童書の貸出点数の増加にもつながっているということで、それは大変評価したいところですが、目標にもありましたように、図書館は子どもからシニアまで幅広い世代が使うものですので、それ以外の貸し出し、利用が減少傾向にあるというのは、全国的にもそうだとはいえ、気にかかるところです。

そういった意味でも、例えば、昨年、図書館の職員や司書向けにされていた門真の歴史を知るような講座などは、シニアの方にニーズが、興味、関心をもっているところだと思いますので、市民向けに少し開放してやっていただけたとか、それによってシニアの方が図書館に来られると、先ほどのボランティアへの参加にもつながっていく可能性が広がるのではないかなと思います。そういったあたりで図書館行事の幅も、大変だとは思いますが、広げていただけたらと思います。

事務局 ありがとうございます。今年度、シニアの方等にも広報をしていったほうがいいのではないかとということで、いま減少しているのが、対面朗読や読書会も減少してきています。定員が6、7名いたところ2人になっていたりもありまして、先日、職員が老人福祉センターに直接PRに行ってきました。それと、先生から提案がありましたように、歴史の方も図書館で開催を検討いたしまして、またPRも直接行くような形で行っていききたいと思います。

委員長 ほかにありませんでしょうか。では次の案件に移ります。案件4、その他について、事務局から説明をお願いします。

事務局 その他の一つ目としまして、平成28年3月に策定しました「第2次門真市子ども読書活動推進計画」の推進状況についてご報告いたします。資料4をご用意ください。資料4「平成28年度第2次門真市子ども読書活動推進計画推進状況」に、計画に掲げた各施策の具体的な取り組みごとの平成28年度の推進状況を記載しております。

まず、推進項目1「家庭・地域における読書活動の推進」では、図書館や保育園、幼稚園、社会教育課の事業「かどま土曜自学自習室サタスタ」「まなび舎Kids」、また、子育て支援課の事業「放課後児童クラブ」で、絵本の情報提供や読み聞かせなど各施設や事業に合わせた活動を継続して行ってきました。

図書館としましては、講座「読みメンになろう&家族で本を楽しもう！」を開催し、男性も含め家族で読み聞かせや本に興味をもってもらう機会を設けることができました。

ボランティアの「絵本ことの葉会」には、女性サポートステーションやラブリーフェスタ、地域会議で読み聞かせを行っていただき、地域での読書活動を進めていただきました。

続きまして、3 ページです。推進項目 2「図書館における読書活動の推進」では、資料の充実に向けて選書や蔵書管理を行うとともに、子どもたちが利用しやすいように、児童書の棚を分かりやすく配架したり、先ほど報告でもありましたように、絵本作家のイラストを展示したりしました。

また、児童サービスの充実では、児童サービスに関する研修への職員の参加や、ボランティア向けにブックトークや絵本に関する講座を開催し、子どもの読書を支援する手法や知識の向上を図りました。読書に親しむ事業として、おはなし会等の行事を継続して行うとともに、学校司書による「えほんのひろば」の開催や、はすはな中学校図書部が選書した本の展示など、学校との連携によって行事や展示を充実させることができました。

続きまして、4 ページをご覧ください。推進項目 3「学校等における読書活動の推進」では、幼稚園、保育園において絵本コーナーの設置や読み聞かせなど、各園工夫して取り組まれています。また、園児だけでなく保護者も関心を持てるよう貸し出しや絵本の紹介などを行っている園もあります。

小学校、中学校では、継続して朝読書や読書週間等の実施が行われています。学校図書館については、学校司書の配置校において、整備や配架が進み、読書環境が整いつつあります。また、子どもが読書に親しむ機会として、学校司書によるブックトークや P T A や地域の方、ボランティアによる読み聞かせをしている学校もあります。

次に、6 ページの、推進項目 4「連携・協働と普及・広報活動の推進」では、学校等への配本の開始や、司書教諭を対象に図書館の利用方法や学校での読書の取り組みの紹介、学校司書との連絡会の実施といった学校等への支援を進めることができました。

ボランティア等への支援や協働については、読み聞かせボランティアによるおはなし会を継続して実施、ボランティア養成講座やボランティア活動の紹介を行いボランティアの活動支援や新規ボランティアの呼びかけを行いました。

他に、28 年度から始めた「図書館だより」の発行や、絵本作家によるイベントなど、普及・広報活動にも取り組んでまいりました。

続きまして、子どもの読書活動の推進に関連しまして、昨年、図書館として支援いたしました「常盤町子ども会地域文庫について」ご報告させていただきます。

（スクリーンをご覧ください。）

常盤町子ども会地域文庫は、たんぽぽ文庫として地域の人が世話役となり子どもたちに親しまれてきた図書館です。昨年 35 周年を迎えリニューアルし、名前も常盤町みらい図書館となりました。平成 28 年 1 月末に、常盤町子ども会より図書館に連絡があり、本の貸し出しを行っているが本が古くなったので買い替えの予算がついた。選書ができないのでどういう本を選んだらいいのか教えてほしいとのことでした。10 数年前までは自治会館や自分の家を開放した地域文庫が活動しており、図書館から毎月、本の貸し出し、返却のため地域へ

巡回したりしていましたが、協力の方が高齢になっていくに伴って活動をやめる文庫が増えていき、図書館としましても把握している中では、文庫活動はなくなっているものと思っていましたので、2月に選書方法の説明をしたときに活動内容をお聞きし、リニューアル前とリニューアル後に訪問させていただきました。

では、写真を見ながら説明をしたいと思います。

（こちらが、文庫活動をされている横地公会堂です。以前は毎月第1土曜日にたんぽぽ文庫として午前中2時間程度開館していました。）

（リニューアル前の様子です。このように古い本が並んでいて、書架の種類も寄贈で成り立っているようで、種類が様々でした。たんぽぽ文庫計画として、まずは3月末に本の廃棄と書架の撤去を始めるということでした。）

（たんぽぽ文庫計画の目的としては、大きく二つ掲げておられました。一つは、子どもたちが本に触れる機会を提供するため、全学年の子どもたちが読みたいと思える本をそろえる。二つ目は本を衛生的に管理できるように、図書館の環境を改善するというものです。）

（6月になりリニューアルした図書館を開館するという連絡をもらいました。本と書架は地域の書店に協力してもらい、本は選書をしてブックカバーやラベルをつけ、書架は予算の中から選び、大変いいものになったとのことでした。1月に見学に行かせてもらいました。図書館の名前は、子どもたちに募集し、常盤町みらい図書館と決定したそうです。）

（習い事をしている子どもたちが来やすいようにと、第2日曜日午前と、第4土曜日午後の、月2回の開館に変更されました。第4土曜日の午後は、地域の老人サークルと同じ時間に指定し、交流ができるようにしたが、同じ空間にいるだけでもいいと思っているとのことでした。）

年間8回であった開館日を24回に増やし、皆勤賞で図書カードのプレゼントを廃止した代わりに、10回借りた子どもにはリクエストカードをプレゼント。自分では買えないような本をリクエストしてもらい、1番に貸し出しということを始めたとそうです。）

（今後は図書館ボランティアを募って、ブックカバーをつける講習会を開くことや、小学6年生の図書委員を募って貸し出しをしてもらうことなどを考えていると言われていました。）

（こちらが横地公会堂内の新しくなった常盤町みらい図書館です。本のラベルや本の配架は、小学生の高学年の子どもに考えてもらったそうです。分類も子どもたちに分かりやすく、色のシールで分けてあります。）

（このように子どもたちに人気の、新書サイズの読み物を増やしたり、図鑑や読みやすいマンガの読み物シリーズを購入されたり、こちらのシリーズは学校では人気なので書架にこのように多く並ぶことはないと思います。）

（こちらがマンガから学べるシリーズです。あまり図書館では置いていないものですが、子どもたちには分かりやすく解説しているシリーズです。）

（こちらは教科書に載っている作品のシリーズなど、書店の方のアドバイスをもらいながら選書したそうです。）

（子どもたちが新しい本をうれしそうに手に取っていました。）

(また親子で一緒に本を選ぶ姿も見られ、地域の人に親しまれている文庫であると感じました。)
以上が常盤町子ども会地域文庫の報告となります。

事務局

続きまして、学校連携についてご報告させていただきます。

28年度中の主だった連携事業としましては、先ほど事業報告でお伝えしたところですが、事業以外の学校連携として、学校司書の配置が進んだことや、学校での授業の取り組みから、調べ学習の問い合わせが増加傾向にあります。昨年度は、複数の学校から問い合わせがあった「のりもの」や「食べ物の変化」、「ユニバーサルデザイン」などの資料を用意しました。中でも、「ユニバーサルデザイン」については、学校の先生が児童と一緒に来館して図書館内の「ユニバーサルデザイン」を活用している部分を見て、体験してから調べ学習に取り組むたいとお話があり、先生と連携を取り、打ち合わせをした上で、来館した4年生の児童約100人に対し、図書館内の点字ブロックや点字器などの説明を行い、拡大読書器の体験をしてもらい、関係資料約100冊の貸し出しを行いました。

写真をご覧ください。約100名の児童が来られました。休館日でしたので、児童を3グループに分けまして、3人の職員がそれぞれ説明をしながら館内をまわるという方法をとりました。

拡大読書器も、直接手に取って体験してもらいました。

最後に、質問を受けさせていただきました。

後日、来館した児童からは「発表に役立ったし、勉強になった」とも言われました。こういった経緯から、今年度は、調べ学習用図書費として予算の増額となりました。

報告に戻ります。今年度、小学校14校、中学校6校、合わせて20校に対し、学校司書が10名配置されております。平成25年度に、初めて4校に2名が配置されてから、毎年度、2名ずつ配置され、全校配置されることとなりました。学校司書と図書館との連絡会も3回行われ、内容としましては、図書館からは利用方法の案内、読み聞かせの講習などを行い、学校の状況などの情報交換をする場となっており、今後も2カ月に1回行われる予定です。学校司書の経験が初めてとなる方が半数いることから、学校図書館の状況を見て、アドバイスが欲しいとの声をいただき、学校教育課と連携し、各学校の図書館を順番に訪問しております。

長い間、専任の司書がいなかった学校図書館では、入り口近くの棚が手作りの箱のようなもので積み重ねられて暗い印象となっていたり、子どもたちがどこに返すのか分からないことが多いのか、色分けされたシールが混在していたり、書架の間に平積みになっていたりとしていました。

その様子を写真で案内します。

こちらは手作りの箱が上に2段、重ねておられます。入り口を入れてすぐの所です。平積みになっていたり、面展台に紹介している本を置いていてもすぐにはばらばらになるということでした。

その学校には、5月中に1週間おきに3日間、学校司書、学校教育課、図書館

担当、図書館司書で協力し、本の整理を行いました。

こちらがその様子です。奥にある絵本等が載っている書架も壁と並行になっていて奥に行きにくいような、通路としては悪いのかなという感じでした。

全面的に本を出しまして、日本十進分類法に伴って入れなおすという作業をしています。

初日は、図書館入口付近の手作りの箱を移動させて、棚の上を展示などで利用できるようにスペースを空け、並べてある本を日本十進分類法にそって、分類ごとにまとめました。作業の途中で、授業で来館した子どもたちには、入り口が明るくなったためか、「わあ、きれいになった。」、「きれいにしてくれて、ありがとう。」と言われました。

2回目、3回目とすべての本を分類に分け、書架の並びにそって配置することができました。

壁面に平行に並んでいた絵本の棚の向きを変えました。読み物は、低学年用、高学年用を集め配架しました。

今後は、子どもたちに分かりやすい分類の指示や、文学の著者やシリーズ名の順番に並べる作業や、配架場所の案内掲示など、学校司書が先生と協力しながら進めていくとのことでした。

また、8月には、学校司書を初めて経験する方に図書館の仕事を体験してもらう研修を考えております。

学校連携の報告は以上です。

事務局 続きまして、議会質問についてご報告させていただきます。報道等でご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、6月議会にて門真市内中学校の学校図書館で購入したライトノベルズについて議員より質問がありました。

質問内容といたしましては、特定のライトノベルが学校には不適切ではないか、また、購入の審査や手続きに教員や司書はどのように関わっているのか、購入本の今後の対応策について議員より質問がありました。

担当課の答弁としましては、図書の購入に関しましては生徒の意見も参考にしながら図書担当教諭が選書し、校長、教頭が審査のうえで、教育総務課、学校教育課が購入しており、今回ご指摘のライトノベル購入時には学校司書は配置されておらず、現物の本を購入した後で生徒の性的感情の刺激を懸念して配架は控えるという措置をしていたとのことでした。

該当のライトノベルについては購入したのに配架していないのは無駄とのご指摘があったことから教育部で協議し、図書館へ管理換えすることとし、現在、図書館所蔵となっております。

議会質問については以上でございます。

委員長 案件4について説明がありました。何かご質問などございますでしょうか。

委員 全体をとおして、写真をたくさん用意してくださいまして、ビフォー・アフターを含めて様子がすごく良く分かりました。ありがとうございます。

第2次門真市子ども読書活動推進計画だけを拝見しましても、昨年度、新規5

で拡充が9ということで、そして職員構成という資料もいただきましたが、本当に、体制ですね、職員の。私たちもあれもこれもと言わせていただくこともありますが、職員体制が本当にこのバランスで大丈夫なのか、あるいは増やすというようなことは検討、あるいは予定はないのかどうか少し心配になりましたのでご質問させていただきます。

事務局 職員は定数の配置となっております。非常勤嘱託職員がかなりスキルアップしてきて、今まで以上に業務量が増えていることとなっております。非常勤嘱託職員に関しましてはヒアリング等も行っておりまして、図書館の運営の発展のために、「図書館だより」の作成をしてもらうなど児童サービスや、一般書の展示など、率先してやっていただくような形になりまして、拡充、また新規の業務等も取り組んでいる状況です。

委員 さらに体制が整えば、ということをお願いしております。

委員長 ほかにございませんでしょうか。ほかにないようであれば以上をもちまして本日の議案について終了し、平成29年度第1回図書館協議会を閉会いたします。ありがとうございました。
それでは事務局にお返しします。

事務局 はい。では最後に部長より閉会のご挨拶を申し上げます。

部長 改めまして、ありがとうございました。
閉会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。皆さま方におかれましては公私ご多忙の中いろいろお話しいただきまして、中にはボランティアの読み聞かせとか、学校に入っただきながら子どもたちの読書に馴染むようにということでご活動いただいていることに、改めてお礼を申し上げたいと思います。私も学校教員の出身でございます。一昨年までははすはな中学校の校長をしておりました。図書館司書が配置され環境が良くなって、地域の方々がこのように子どもたちのために活動していただいているのは、どんどん広げていくべきだと。先ほどの横地公会堂で地域の方がやっておられるところを私も見に行ってきましたが、ああいったことについてもしっかり目を向けていきながら、子どもたちがいろいろな所で本に親しむという、そういった環境をつくっていきたいと思います。また、シルバーの方にもご協力していただく、そういったことも視野に入れてやらなければならないと。子どもたちはじめ、大人の方々も本や読書に親しむということになれば、門真の子どもたちも市民の方々も本を好きになっていただけたと思います。
そういった中で、このようなお話し合いをさせていただいて非常に有意義だと感じております。皆さま方がご議論いただいたことについても検討をしっかりとさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

事務局 以上をもちまして図書館協議会を終了したいと思います。本日はお忙しい中ご

参加いただいてありがとうございました。